

食生活に関する事前アンケート調査（保護者用）結果の考察

調査時期：平成 16 年 6 月

調査対象：館林市立第九小学校 第 5 学年の調査対象児童の保護者(40 家庭)

調査方法：質問紙法

回収率：70%（28 家庭）

1. お子さんは料理の手伝いをしていますか。

全くしていない児童は 0 人であった。児童用のアンケートでは、リンゴの皮がむけない児童が 20 名、家で一人で料理をしたことがない児童が 10 名いたが、お手伝い程度なら何らかのかたちで全員の児童がしていることが分かった（図 1）。

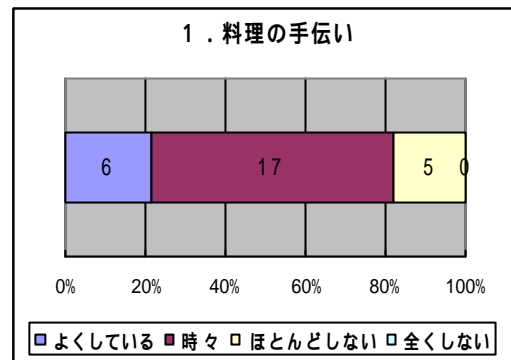


図 1 料理の手伝い

2. あなたは、お子さんが家庭で料理をすることについて、どう思いますか。

1 名以外の家庭においては、子どもが料理をすることについて肯定的にみている（図 2）。

料理をやらせたい理由の多くは、将来必要だからや子どもがやりたがるからの理由の 2 通りに別れていた。あまりやらせたくない理由は、火事になってしまうといけないというものであった。

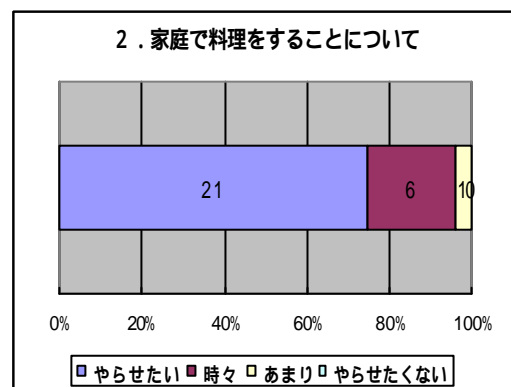


図 2 家庭で料理をすることについて

3. 今までにご家庭で、料理の仕方などをお子さんに教えていますか。【準備の仕方】

本質問項目 3 の 4 つの設問の中では、あまり教えていない家庭が多かった（図 3）。下準備などは、保護者がやってしまうことが多いのでないだろうか。家庭でよく教えているという 1 名は、本質問項目の全ての設問においてよく教えているを選択していた。

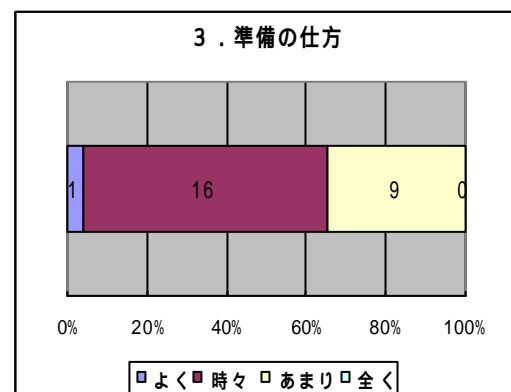


図 3 準備の仕方

3 __ . 今までにご家庭で、料理の仕方などをお子さんに教えていますか。【料理の方法】

質問項目2の設問で、家庭で料理をすることについて80%近い家庭でできるだけやらせたいと回答した通り、70%の家庭で実際に料理の方法を教えていることが分かった(図4)。

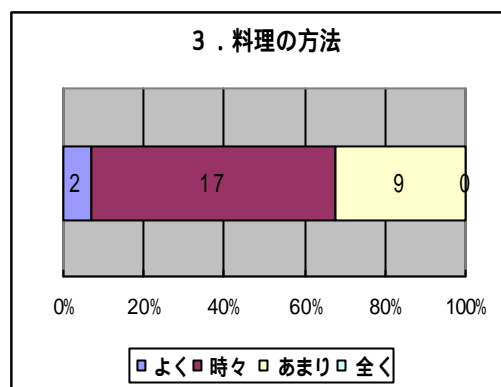


図4 料理の方法

3 __ . 今までにご家庭で、料理の仕方などをお子さんに教えていますか。【配膳の仕方】

配膳については、70%という比較的多くの家庭で教えていることが分かった(図5)。

とはいえ、給食の盛りつけ方や、林間学校での箸や茶碗の置き方を見ていると、充分身に付いているとはいえない児童も多い。家庭によっては、配膳についてよそった料理等を置くだけととらえている家庭もあると思われる。

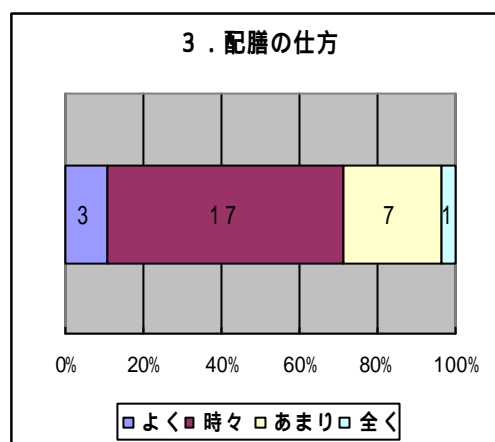


図5 配膳の仕方

3 __ . 今までにご家庭で、料理の仕方などをお子さんに教えていますか。【後片づけの仕方】

本質問項目の設問の中では、教えている家庭の数が一番多かった(図6)。しかし、家庭によって後片づけの解釈に違いがあるといえる。児童が自分で食べた食器を運ぶという段階から、家族の食べた食器を洗うという段階まで広範囲にわたっている。

児童の実態をみると、家庭科の授業の調理実習の際、食器等の正しい洗い方や環境に配慮した洗剤の使い方の指導が必要であると思われる。

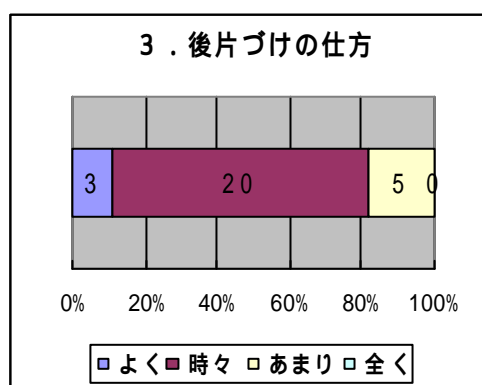


図6 片付けの仕方

4. お子さんは、一人で家庭で料理を作りますか。

児童にも同じ質問をしているが、児童の回答の方が保護者の回答よりも一人で料理を作るという%がやや多くなっている。家庭科の授業が始まって間もないこの時期に、40%近い家庭で子どもが一人で料理の経験があるということはよい傾向であると思われる(図7)。

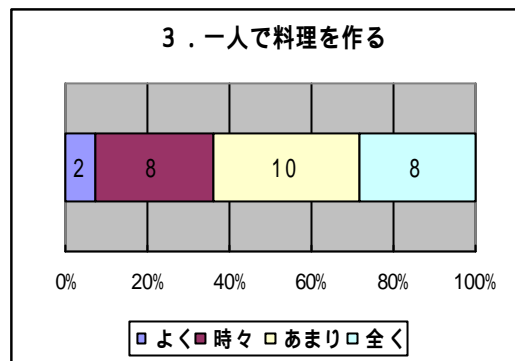


図7 一人で料理を作る

5. お子さんは、偏食がありますか。

6. 偏食を直す指導は、必要だと思いますか。

児童にも同じ質問をしているが、だいたい同じ結果となった。偏食があると回答したほとんどの家庭は、偏食を直したいと考えていた。偏食の指導の必要性を全く思わないと回答した1名は、子どもに偏食が全くないという家庭であった(図8、図9)。

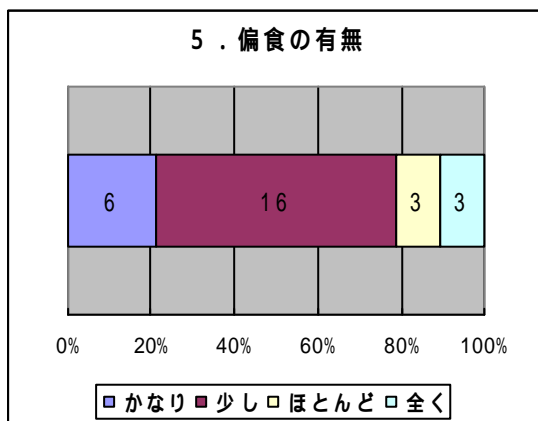


図8 偏食の有無

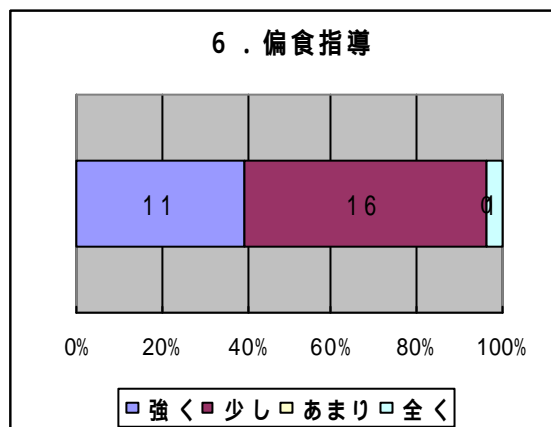


図9 偏食指導

6. 偏食指導を必要だと答えた方は、偏食を直す指導をどこで行うべきだと考えていますか。

家庭で指導を行うべきだとの回答が70%と多かった(図10)。偏食は今になって始まったことではなく、幼少期からの食生活の在り方等が起因しているといえる。

また、児童用アンケートの給食を残す理由の回答では、食べたことがないや味が家庭と違うといった内容が多かった。児童の3回の食事のうち1回は学校給食であるので、給食指導や家庭科の時間等も利用して、偏食を直して行く指導を行う必要があると思われる。

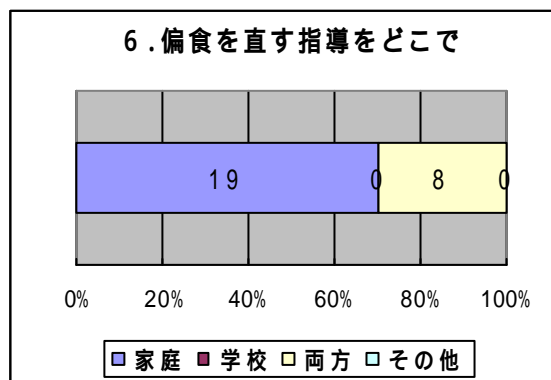


図10 偏食を直す指導をどこで

7. 休日を利用して、親子料理教室を学校で実施するとしたら、参加できますか。

約50%の家庭が参加できると回答している(図11)。参加を希望する理由は、「親子で活動するのは楽しいから」や「簡単なレシピなら子どもでも作れるから」などが多かった。参加できないや分からないという回答では、習い事や試合が休日に入ってしまったという理由が多かった。

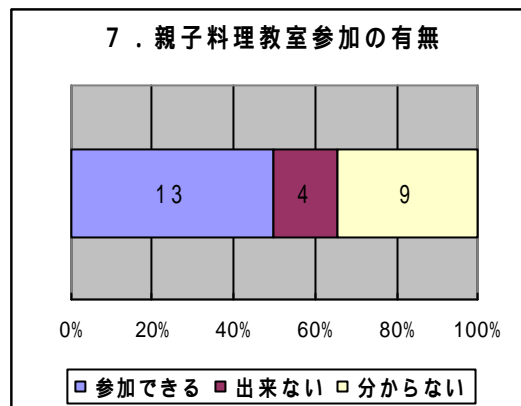


図11 親子料理教室参加の有無